

令和8年1月19日
課名 農林水産局農林水産総務課
担当者 課長 浅岡
内線 3510

令和6年農業産出額（広島県）について

1 要旨

令和7年12月23日に農林水産省が公表した、令和6年農業産出額（都道府県別）における広島県の概要を報告する。

2 概要

(1) 調査期間

令和6年1月から令和6年12月までの1年間。

(2) 前年との比較

ア 全体

広島県の令和6年農業産出額は、米、野菜、果実の各分野において、産出額が増加するとともに、野菜及び果実の産出額は、それぞれ過去最高となり、前年（1,448億円）と比較して92億円増加し、1,540億円（6.4%増）となった。

イ 分野別

(7) 米

主食用米は、全国的な高温障害等により精米歩留まりが悪かったことから供給量が減少したことに加え、インバウンド需要など消費量が増加したことにより、民間在庫量が急激に減少して米価が上昇したため、前年（247億円）と比較して130億円増加し、377億円（52.6%増）となった。

(8) 野菜

キャベツやほうれんそうなどは、春先の低温と夏の猛暑の影響で生産量が減少し、品薄のため価格が上昇した。一方、トマトや青ねぎなどの施設栽培品目は、他県産が猛暑などの影響により品薄になる中でも、高温対策技術などを活用して栽培したことで、安定した生産量を確保できた。この結果、生産額は前年比13億円増の308億円（4.4%増）となった。

(9) 果実

みかんは夏の猛暑、なしは害虫の影響により生産量が減少し、全国的に両品目とも品薄のため高値で推移した。この結果、生産額は前年比4億円増の171億円（2.4%増）となった。

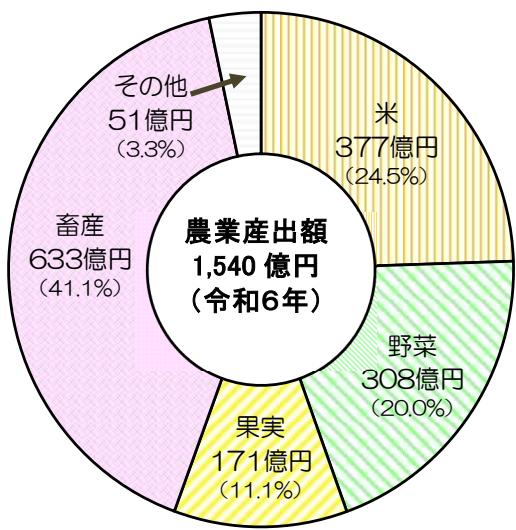
(I) 畜産物

鶏卵については、令和4年度に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響により減少した生産量が令和5年度以降回復傾向で推移したことに伴い、価格が高騰した前年（361億円）と比較して72億円減少し、289億円（19.9%減）となった。

また、肉用牛については、令和2年から3年にかけて実施された国の増頭支援事業等により頭数が増加した和牛が出荷時期をむかえ、令和6年に出荷頭数が増加したこと等から、前年（77億円）と比較して5億円増加し、82億円（6.5%増）となった。

なお、畜産物全体の産出額については、前年（691億円）と比較して58億円減少し、633億円（8.4%減）となった。

【農業産出額内訳】



【品目別産出額上位 10 品目】

| | 品目 | 産出額 | (参考) 令和5年 |
|-----|-------|-------|------------|
| 1位 | 米 | 377億円 | 247億円 (2位) |
| 2位 | 鶏卵 | 289億円 | 361億円 (1位) |
| 3位 | 豚 | 151億円 | 146億円 (3位) |
| 4位 | 肉用牛 | 82億円 | 77億円 (4位) |
| 5位 | 生乳 | 69億円 | 59億円 (5位) |
| 6位 | ねぎ | 55億円 | 48億円 (6位) |
| 7位 | トマト | 45億円 | 44億円 (7位) |
| 8位 | ぶどう | 40億円 | 39億円 (9位) |
| 9位 | みかん | 34億円 | 40億円 (8位) |
| 10位 | ブロイラー | 24億円 | 22億円 (一) |

※ 色付きの品目は、前年度から増額となっているもの

3 農業産出額の推移

平成 22 年まで、米の産出額の減少に伴って全体の産出額は減少傾向であったが、野菜、果実及び畜産の産出額の伸び等により、増加傾向に転じている。

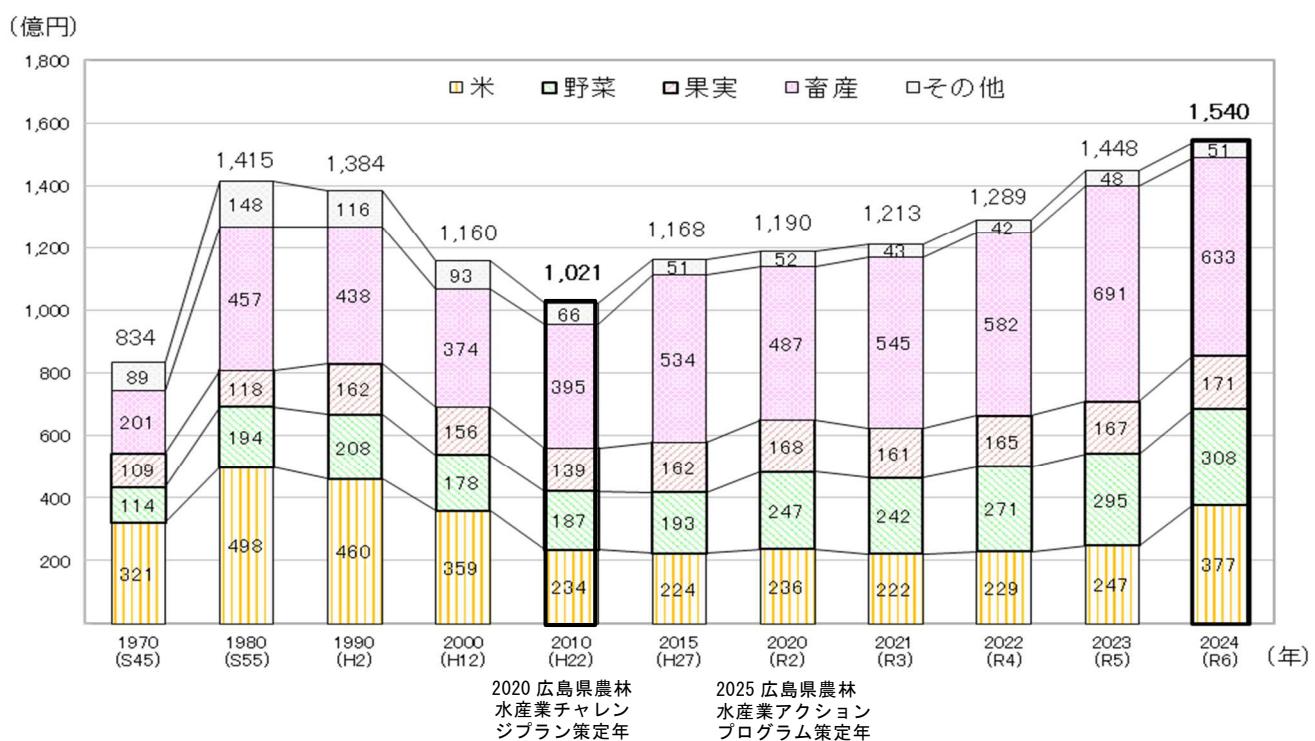
野菜の産出額は、平成 22 年の 187 億円から 308 億円（対 2010 年比 64.7% 増）、果実の産出額は、平成 22 年の 139 億円から 171 億円（対 2010 年比 23.0% 増）となり、畜産についても平成 22 年の 395 億円から 633 億円（対 2010 年比 60.3% 増）となった。

農業産出額全体では、平成 22 年の 1,021 億円から 1,540 億円（対 2010 年比 50.8% 増）となっている。

また、2025 農林水産業アクションプログラムにおいては、畜産を除く「農業生産額」を指標として設定しており、令和 6 年度の目標値 732 億円に対し、実績は 907 億円となつた。

なお、令和 5 年から 6 年の農業産出額の大幅な増加は、米をはじめとした品目の単価高も影響している。

【農業産出額の推移】



《参考:全国における農業産出額の推移》

(兆円)

